

世田谷14団  
2017年  
春号

# スカウト フェスタ

ボーイ&ガール合同での、スカウト体験プログラム

2017年は4月30日の午後に開催！



最新のボーイスカウトについてのアンケートによると、「ボーイスカウトはみんなが知っているナゾの団体」なのだそう。ボーイスカウトを知っている人は92.3%だけど、活動内容を知っている人はたったの18.0%という結果が出ました。なんて残念なことでしょう！



ボーイスカウトもガールスカウトも、アウトドアの達人を育てるための活動だというイメージがあります。もちろん野外がなによりの教場と考えているので、結果的にはみんな自然の中で過ごすことが大好きなんですけどね。少年期・青年期に様々な体験を通して自分を発見し、自信をつけ、周りの人たちや環境のことを考えて行動できる力を身につけていく場なのですが、これを一言でわかりやすく説明するのが、実はとても難しい。



14団とガールスカウト東京58団は、まずは地域の子どもたちに参加してもらおうと、長年続いているスカウトフェスタを今年も合同で開催します。スカウトと一緒にテント体験や野外ゲーム、キャンプファイヤーなどで遊び、「ここ、好きだな」と感じてもらえるといいなと思っています。もちろんボーイスカウトが一番大事に考えている「ちかいとおきて」のこともしっかりお伝えしますよ。



テントの中は  
ちよつと暗くて、  
なんだか秘密基地みたい。  
きつとわくわくしちゃうよ。



竹トンボを飛ばしてみよう！  
「ひらたさん」は、もちろん今年も  
こどもたちのために  
ここにこで竹細工を準備中！



春舎営に出発する日。

リーダーからの「集合！」の声がかかるまでカブスカウトはいつものようにブランコに集まっておしゃべりに夢中。なにやら野外で食事を作ったり、飛行機を見に行ったり、男の子の心をくすぐる企画がいっぱい詰まった2泊3日になるようです。

「集合！」

みんなの顔がピッと引き締め、リーダーを囲んで大きな輪をつくって隊長からのお話を聞きます。

「今日からキミたちは春舎営に行きます。なんと、島流しの刑です。」

「え～！うっそー！島～？聞いてない～」

わくわくしてつい口をはさんでしまうスカウト達をぐるっと見回して、「ほらね、隊長のお話中におしゃべりが始まっちゃうんだもの、仕方ないよ。でもね、お金がかかっちゃうから船には乗れなくて電車で行くんだけどね！」とお茶目な隊長の笑顔に、みんなもほっとして、にっこり。

一度解散し、出発の準備をしつつさっきから気になっていた質問を試みる。

「ねえねえ、隊長。トクンはどうしたの？コウちゃんは？」

「うん、トクンは残念だけどお休み。コウちゃんは夕方には来るよ。」

仲間のことがとつても気になるよね。

月に2～3回集まって、カブスカウト時代は

とにかく元気に遊んでいます。

その時に仲間がいた方が断然楽しいもの。

公園で走ったりハイキングに出かけたり、クラブも作戦会議も発表会も、友達がたくさんいると発見も倍になる。

さあ、出発！どんな島流しにあってくるのか、話は帰ってきてからの楽しみ。

なんと3人も新しいスカウト誕生！  
ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊に、  
1人ずつ仲間入り。

スカウトミサの後の入団式。

それぞれ自分の隊長の前に立って  
「ぼくは、この活動を今から始めるよ。  
なかまのことも自分のことも大事にして  
いろんなことにチャレンジしていくよ。」  
を、隊の言葉で宣言します。

言葉はちがうけれど、意味はみんな同じ。  
ボーイスカウトが一番たいせつにしている  
「自分との約束」です。

ビーバースカウトは 「やくそくときまり」  
カブスカウトは 「やくそくときだめ」  
ボーイスカウト以上は 「ちかいとおきて」



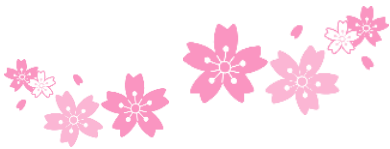


中学生も高校生も、3年生になり受験モードに入ると「休隊」の道を選ぶスカウトがほとんど。中高生にとっては一大事なので、じっと待っていたところ、ようやく3人のスカウトが顔を見せてくれました。おかえりー！  
みんなで待っていたよ。元気そうでうれしいな。



小さい頃は、「ボーイスカウトはいい運動だから」と保護者も一生懸命活動に参加させようと頑張るのですが、この年頃になってしまうとそんなことは全く通用せず、自分から「行こう」と考えないと復帰はなかなか難しい。

これまでの活動を通して、「みんなと一緒にいると楽しい」「去年よりもうまくなることが増えた」といった喜びだけでなく、「自分がどれだけみんなの役に立てたか」を実感したり「班のメンバーをまとめるにはどうすればいいか」を悩んだり、自然や仲間の存在のありがたみにぐっときた経験、「あの人にまた会いたい」「話したい」と思える出会いをもた、復帰への大きな力となるポイントです。



新しい学校に入学し、これまでよりもっと広い世界で生きていくキミたち。若い時だからこそ、知識だけではなく、人とのつながりの中でこそ味わえる経験や感動も食欲に求めていけますように。ベンチャー隊で、そしてローバー隊での活躍も、大いに期待していますよ。

リーダー集会も団会議も団委員会も、きちんと開催されてしっかりうち合わせをしても、埋まらないのは心の部分。「私はこう考えている」「あなたはこう感じている？」

だからこそ、リーダーナイトフォーラムはとても楽しかった！いろんな話が出て、すっかり夢中になった3時間余り。

リーダーが1級スカウト程度の技術を身につけることも必要かもしれないけれど、そんなことよりももっと大事なことは、謙虚に振り返ること。私たち自身が「カッコいい大人」であることは、スカウトたちへの礼儀。

ここで出会えたのは奇跡のよう。同じ時代、地域に暮らし14団に集まった不思議さと、磨きあえる存在でいられることに、ありがとう。



3月のある日の午後。  
ビーバースカウトを始めたい  
年長さんとおかあさん2組とお会いしました。

つい最近、考えた末に団を離れてみたものの「ああ、自分にはなんとい居場所だったのだろう」と改めてわかったと、戻って来たローバースカウトがいます。別の道を歩みたいと思うなら、自分で決めていけばいい。まががっていたと気がつけば、やり直せばいいだけのこと。

子どもも大人も一緒に取り組むボーイスカウトの運動は、どんな時にも「自分は誠実に生きているかな？」「周りの人に親切で、礼儀正しいかな」を生活の指針に中心に据える生き方。いつからでも、だれにでも始められる素晴らしい運動です。



「好きなものはなに？」  
「幼稚園の先生はなんていうお名前？」  
などに続いていつもの質問。  
「ビーバースカウトに入りたい？」  
2人がにっこり顔を見合わせた瞬間、後ろに座っていた副団委員長がつぶやく…  
「一度入ったら、やめられないよ」

ええ？ どうする？ どうしよう？  
慌てて顔を見合わせて、やめる？ やめようよ。  
でもやりたい。ほくもやりたい。ね！ ね！  
大急ぎで声をそろえて  
「うん、やるよ。ビーバースカウト」

記念すべき「はじめの一歩」。

